

気候変動 わたしたちにできるアクション みんなで見つける！ワークショップ

11月29日
月曜日

オンライン開催しました

組合員でもある野崎安澄さんと榊笙子さんがファシリテーターとなり、会を進行しました。

35人がオンラインで参加、楽しく熱く、そして明るい未来を感じるような会でした。当日の会の様子はこんな感じ。。。。

- まずは、zoomのブレイクアウトルームを活用して、地球温暖化で思い浮かぶことを2人一組で自由に話します。ここで一気にリラックスモードに！
- 次に、地球温暖化を逆転する100の方法「ドローダウン」についての短いビデオを見て、3人一組で感想をシェアしました。
ドローダウンとは「削減」や「縮小」を意味する言葉で、温室効果ガスを地表に戻すイメージ。地球温暖化を逆転するために、温室効果ガスを削減すること。
このドローダウンに有効なアクションの上位に「冷却材」「菜食」「女性教育」などがあることに、参加者からは驚きの声があがりました。
- 再び、気候危機を逆転するアイデアのビデオを見て、3人一組で感想をシェア。
「このアイデアは気候危機だけでなく、様々な人間自体の課題とつながっている」
「この時代に生き困難に向き合っていることも、良い経験に変えることができる」
「意見の違う人の話に対しても傾聴が大切」などの奥が深い話も、3人で感想を言い合い対話をする中で、理解が深まった様子に感じました。
- 最後に、個人的に取り組みたいことを3人一組で意見交換。
「生ゴミの処理にコンポストを活用したい」「畑のコミュニティを作って皆で野菜を作りたい」「話を聞くことの大切さを教わったので、さっそく家族から…」など、みんなの「やりたい宣言！」でワークショップを終了しました。
あっという間の2時間でした。

～ 野崎さんより ～

みなさんがワクワクしながら、地球温暖化逆転のために自分ができること、自分たちだからこそできることを考えてくださっている姿が嬉しかったです。人間の想像力と創造力は無限大。ぜひこれからもその両方の力を使って、この人類が未だ体験したことのない気候危機と一緒に乗り越えていきましょう！

～ 榊さんより ～

「みんなで見つける」「対話するワークショップ」はこんなにも楽しくて創造的！みなさんの笑顔がいっぱいであっという間の2時間でした。仲間と出逢い、語り、立ち止まって大切なことに気づく時間。この時代に生きていることがチャンス！ここからまた新しいなにかはじまる気がしますね。楽しみです！！

気候危機逆転のための有効な手段の一つに「太陽光発電」「風力発電」「バイオマス発電」など、再生可能エネルギーへの転換が。「生活クラブでんき」へ切り替えることは、私たち組合員が、今すぐにごできることのひとつですね。



生活クラブの取り組み

プラスチック包材のミニ学習会 開催しました

「生活クラブの消費材のプラスチック包材って、多くないのかな。」

「果物などのプラスチック包材を減らせないのか、紙包装にできないのか。」

「お鍋を持って豆腐を買い、お婆さんに、もったいないと言われながら育てられた私は大量消費や使い捨ては居心地が悪い。環境汚染や気候危機が心配でプラスチックゴミ反対。」

こんな雑談が、プラ包装学習会につながりました。まず知ることが第一歩。

講師は生活クラブ連合会「持続可能な生産と消費」を推進するSR推進室の室長の山本義美さんです。

「自主基準」

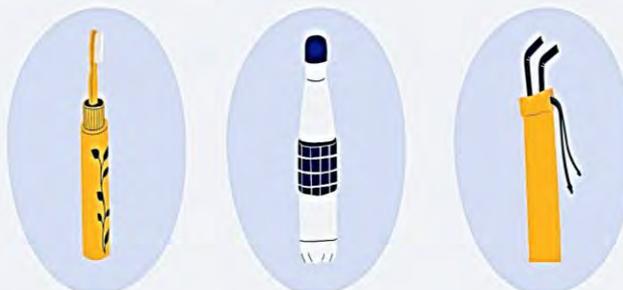
生活クラブには自主基準があり、かなり細かく基準が決められています。しかも、これは、すべて、組合員自身が決めたことなんです。委員の中からも知らなかったという声が多数でした。



「生活クラブ2030行動宣言」はこちら

プラスチック： 役に立つのは数分、 その害は数十年

プラスチック製品が私たちにとって便利なのは数分ですが、海の中で分解されるには何十年もかかります。



プラスチック製歯ブラシ：
分解されるまで
500年

ペットボトル：
分解されるまで
450年

プラスチック製ストロー：
分解されるまで
200年



コーヒーカップ：
分解されるまで
30年

ビニール袋：
分解されるまで
20年

わかったこと

◆再生プラスチックで食品包材に使用できるものは、再生PET樹脂で、安全確認をしている企業が限定されており、そこから調達するしかない。植物由来プラスチックは植物由来PETと、植物由来ポリエチレンであり、特許の関係で限られたところから調達するしかない。コストの問題や、組合員自身の生活スタイルもあり、削減は難しい問題だと感じました。

◆プラスチックは簡単、便利で安い、軽いので、これからの高齢化社会には、すぐに減らすことは難しい。植物由来プラスチックは植物から作るが、食料から作るのダメなので、草・微生物・残渣から作るの、とてもコストがかかる。

◆組合員が求めた消費材の個包装、小容量、過剰包装になったものがある。仕分けプラ袋の使われ方が無駄のように見えるが、現在のデリバリーセンターでの組み込みシステム上、やむを得ないということです。

生活クラブの今後の方向性

来年2月に向けて、新たな方針を各部署で作成中。生活クラブが真剣に前向きに工夫している事、目指すは脱石油由来プラスチック化・総量削減！で、とても頼もしく思いました。今後の動きが見逃せませんね！

組合員活動として考えること

- ◎ Rビンを洗っている仲間がいる。袋のシールを切っている仲間がいるとうれしくなりました。
- ◎ 回収率アップがもっとできるといいですね
- ◎ 便利で使い勝手が良く、安価なプラスチックを使うことに慣れ切ってしまった私たちにできることは何か、と考えさせられました。
- ◎ 生活クラブだからこそ、先陣を切ってできることからどんどんやってほしい。